

みしま



町内のおばあちゃんたちと三島小5年生と一緒に「おはぎ」
を作りました。(12月11日 おばあちゃんの味)

◎特集

地域の食文化..... P2

①おばあちゃんの味 ②箱膳

奥会津人材育成ネットワーク集会 P6

三島町文化祭「青少年の主張」..... P8

12
2007

広報みしま No.177

うまい！昔ながらの味

◎特集 地域の食文化①

昔ながらの味を
子どもたちに伝え続けて23年
おばあちゃんの味



先に生まれた
おばあちゃんたちは
みんな先生だ

みんなで育てた
もち米で
三色おはぎ作り

子どもたちに、地域で受け継がれてきた家庭料理の味を伝える「おばあちゃんの味」が、十二月十一日、町民センターで開催されました。この教室が始まったのは昭和六十年。「先に生まれたんだから、おばあちゃんたちはみんな先生だ。」と、公民館から老人クラブ婦人部の方々に指導を依頼したのをきっかけに、年二回の開催で現在まで二十三年間続けられてきました。

今回の主食は「おはぎ」。小学生の皆さんが、地域の方々の指導のもとに育てたもち米を使い、あんこ、きな粉、エゴマの三種類のおはぎを作りました。そのほか、きんぴらごぼう、野菜の和え物、大根と豆腐の白和え、けんちん汁を作って、彩りも豊かに仕上がりました。お昼にはみんなでおいしく食べました。

おばあちゃんにとって
子どもたちにとって
地域にとって

おばあちゃんの料理には、その季節に山や畑でとれるものがたくさん使われています。

同じ材料を使っている、そのバラエティーの豊かさに驚かされます。また、おばあちゃんたちは子どもたちとの交流をとても楽しみにしています。この教室のために自慢の野菜を育ててくれたり、山菜やきのこを採ってきてくれたりする方も多く、この教室が生きがいの一つになっているように思います。



「料理の先生」老人クラブ女性部の皆さん

小柴敏子	目黒春江	栗城博子	五十嵐光	菅家アイ	菅家美津	小澤ミツ	石岡ミヨ	長谷川アキ
子江さん	子江さん	子江さん	子江さん	子江さん	子江さん	子江さん	子江さん	子江さん
(西宮)	(西宮)	(西宮)	(西宮)	(西宮)	(西宮)	(西宮)	(西宮)	(西宮)
(下谷)	(下谷)	(下谷)	(下谷)	(下谷)	(下谷)	(下谷)	(下谷)	(下谷)
(五十嵐)	(五十嵐)	(五十嵐)	(五十嵐)	(五十嵐)	(五十嵐)	(五十嵐)	(五十嵐)	(五十嵐)
(大谷)	(大谷)	(大谷)	(大谷)	(大谷)	(大谷)	(大谷)	(大谷)	(大谷)
(間方)	(間方)	(間方)	(間方)	(間方)	(間方)	(間方)	(間方)	(間方)
(登井)	(登井)	(登井)	(登井)	(登井)	(登井)	(登井)	(登井)	(登井)
(川井)	(川井)	(川井)	(川井)	(川井)	(川井)	(川井)	(川井)	(川井)

参加した三島小5年生の皆さん

板橋雄	佐久間祥	五十嵐輝	板橋和	中丸あ	二瓶和	諏江江	板橋江	板橋江
くん	くん	くん	くん	くん	くん	くん	くん	くん
(滝原)	(滝原)	(滝原)	(滝原)	(滝原)	(滝原)	(滝原)	(滝原)	(滝原)
(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)
(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)
(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)
(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)
(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)
(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)	(宮下)



おばあちゃんの味メニュー

あんこおはぎ
きな粉おはぎ
エゴマおはぎ
きんぴらごぼう
野菜の和え物
大根と豆腐の白和え
けんちん汁

Interview

三島小学校5年生



佐久間祥吾くん
「作り方がわからなかったけど、おばあちゃんに教えてもらってできました。とてもおいしかったです。」



諏江霞純さん
「白和えの作り方を覚えることができました。おはぎは久しぶりに食べて、とてもおいしかったです。」



五十嵐輝くん
「白和えが上手にできたし、おばあちゃんたちと仲良く作ることができて、とても楽しかったです。」

※三島町エコ・ミュージアムプロジェクト

町民及び町職員からメンバーを公募した新しい形のグループ。住民参加と地域資源を基本とするエコ・ミュージアムの考え方をもとに、農山村の暮らしを見つめる様々な「学びの場」を創出し、未来へと続く豊かな暮らしづくりを応援します。

☎ 役場 産業建設課 産業係 Tel 48-5533

http://www.town.mishima.fukushima.jp/eco/



※箱膳

自分専用の飯茶碗、汁碗、小皿、箸等が入った木製の箱。江戸時代から昭和初期頃まで、家庭で使われていました。家族がそれぞれ自分の食べる量だけを箱膳に乗せ、食べ過ぎることも食べ残して無駄にすることもない、健全な食生活のかたちの一つです。

心をこめた 山里のおもてなし

◎特集 地域の食文化②

地元の食材と家庭料理の知恵
そして食育を考えた体験イベント

箱膳 はこぜん

地元の食材
箱は三島桐
すべて地元の材料で

伝統的な食事道具の※箱膳を用いて、ものを大切に扱う心や食事作法を学びながら郷土料理を味わう「箱膳食育イベント」が、十二月九日、交流センター山びこで開催され、町内外から二十名が参加しました。山梨県に拠点を置くNPO法人えがおつなげての主催。※三島町エコ・ミュージアムプロジェクトがお手伝いをして、料理は地元の五名の主婦の皆さんにご協力いただきました。メニューは地元の食材をふんだんに使った料理ばかり。食育基本法に基づく

食事バランスガイドにより栄養面も考慮されました。また、箱膳は三島町の桐材で製作されたものを使用。美しい桐が料理をさらにおいしく見せ、まさにすべてが地域の材料と技で作られた、おもてなしの心を表すお膳に仕上がりました。

地域の食文化は
伝統作法や
感謝の心と共に

食事では、大根の漬物を一切れ残しておき、食べ終わった器に白湯を注ぎ、その漬物できれいにすすいでから、漬物を食べて湯を飲み干し、最後に布巾で拭いて箱の中にしまします。この箱膳の食事作法は、自然環境へのやさしさや、ものを大切にする心を現代に伝えるものです。

←食べ終わった器に白湯を注ぎ、残しておいた大根の漬物できれいにすすいでから、漬物を食べて湯を飲み干し、最後に布巾で拭いて箱の中にしまします。この箱膳の食事作法は、自然環境へのやさしさや、ものを大切にする心を現代に伝えるものです。



←箱膳料理を担当された皆さん
(右から)

長谷川 美恵子さん (川 井)
森 田 喜美代さん (川 井)
小 林 有 子さん (中 平)
海老名 陽 子さん (松 原)
萩 野 則 子さん (荒屋敷)



箱膳メニュー

三島産会津地鶏のじゅうねん揚げ
大根、里芋のじゅうねんみそ
きくらげ、にんじんのくるみ和え
かぼちゃ羊羹
きざみ山菜の田舎漬け
だいこん葉飯
なっば汁
やまの牛乳 (豆乳)

Interview 箱膳体験を今後につなげたい

森田喜美代さん (川井)

箱膳がどういうものかわからなかったのですが、見てみると祖父がこのようなものを使っていた記憶があります。今回の料理では栄養バランスに気を遣い、ふだんの食生活を見直す機会にもなりました。この経験を、今後の食を通じた活動につなげたいと思います。

ECO MUSEUM PROJECT
三島町エコ・ミュージアムプロジェクト

このイベントは農林水産省食育モデル民間団体
実践活動事業の助成を受けて開催されました。

奥会津に広がる交流と学びの場



↑こけの生えた巨大な岩を横目に、神々の道を歩く。
早戸地区周辺は岩石の多い地盤で、薄暗い古道には
修験者が現れそうな神聖な雰囲気漂う。



←大きな岩の窪みにひっそりと安置されている
「石坂の夜泣き地蔵」。
昔、赤ん坊の夜泣きがひどい時にお参りした
という地蔵で、子どもが丈夫に育つようにとの
願いが込められている。

精神性豊かな暮らしにふれる 分科会「小さき神々の道を訪ねて」

地元講師／佐久間 定 雄さん（早戸）

早戸地区には、30余りの石仏・石塔が点在する「神々の道」があり、町の文化財にも指定されています。この分科会では、同地区の佐久間定雄さんに道案内と解説をしていただきながら、地藏様、観音様、稲荷様、愛宕様、天神様、水神様、修験者が彫ったと言われる石碑などを巡りました。これらは日常の暮らしに密着した祈りを表す「小さき神々」であり、その暮らしからは、豊かな精神性と感謝の気持ちが感じられます。



佐久間定雄さん

その後、早戸集会所で車座になり、佐久間さんからさらにお話を聞きながら、高齢化の著しい早戸地区を元気づけるにはどうすればよいか、慎ましい里の暮らしが伝えている大切なメッセージを、どのように活かせるのかを話し合いました。



集会には、自然体験や環境教育などをテーマに活動する様々な団体や個人が参加し、有意義な交流が図られた。

奥会津人材育成ネットワーク集会2007

主催／只見川電源流域振興協議会
奥会津人材育成ネットワーク集会実行委員会
共催／東北環境教育ネットワーク
社団法人日本環境教育フォーラム(JEEF)
協力／自然体験活動推進協議会(CONE)

自然や地域に関心を向ける人々
全国各地から集まる

十一月二十三〜二十五日の三日間、交流センター山びこや生涯学習センターカタクリを会場に、「奥会津人材育成ネットワーク集会」が開催されました。奥会津の自然や文化を学びながら、環境教育や自然体験などの交流活動の担い手となる人材の育成を目的に、その分野で活躍されている講師陣を招いて行われ、参加者、スタッフ、総勢九十五名の集会となりました。

一日目は、北海道大学教授の敷田麻実さん、NPO法人ねおす代表の高木晴光さんをゲストに迎え、くりこま高原自然学校校長の佐々木豊志さんの進行でオープニング鼎談。高木さんが北海道黒松内を取り組む様々な地域交流活動を紹介しながら、その活性化モデルを敷田さんが紐解き、地元の人と外の人の交流による地域創造について解説されました。

二日目は、五つの分科会に分かれての地域フィールドワークが行われました。

- ①まさかの時の生き残り塾（場所 金山町太郎布）
- ②奥会津の技にふれる（場所 間方・大登地区など）
- ③小さき神々の道を訪ねて（場所 早戸地区）
- ④森のようちえん（場所 生活工芸館周辺など）
- ⑤世界遺産級のフナ森を歩く（場所 只見町）

と様々な分野にわたる内容で、それぞれゲストや地元講師の方と共に地域を体感しながら、地域資源を守り活かす方法や、自然の中での子育てなどについて考えました。

三日目は、各分科会での内容を全体会で発表。最後に、学んだことや今後やりたいことなどを語り合いました。

宿泊や食事面では、カタクリの会の皆さんにご協力いただき、商工会青年部の皆さんには、夜の交流会でバーを開いていただきました。

参加者は、現代生活の諸問題を意識し、地域の自然や文化を大切に思う方々ばかり。奥会津の魅力を実感すると共に、今後に向けて確実に新たな人材のネットワークを形成できた集会となりました。

Keyman's voice



奥会津人材育成
ネットワーク集会
全体コーディネーター

嵯峨 創平さん
NPO法人環境文化のための対話
研究所代表（東京都清瀬市）

住民の力が集まる仕組みを創ること それがエコ・ミュージアム

今回の集会は初めての試みでしたが、様々な方の思いが集まって、すばらしい「交流と学習の場」となったことを嬉しく思っています。伝統的な暮らしを守ってこられた三島の方々にも、地元講師としてご協力いただきました。そこで聴くことができたお話は、参加者の心にいつまでも残り、多くの交流を生み、きっと未来へつながっていきます。地域づくりの本当の力が住民参加から生まれるのだとしたら、住民の話を「聴くこと」を通じて、住民の力が集まる仕組みを創ることこそが、エコ・ミュージアムの役割に他ならないと思います。

※この事業は、電源立地地域対策交付金により実施されました。



編み組細工の技に感動 分科会「奥会津の技にふれる」

地元講師／五十嵐 文 吾さん（大登）
久保田 節 子さん（間方）
久保田 テル子さん（間方）

編み組細工の工人のお宅を訪ね、製作体験を通して、農民の生活の中で受け継がれてきた「生活工芸」にふれ、農山村の文化を活かした地域づくりについて考えました。

言葉の力

三島小5年
江 霞 純さん



「がんばってね。冬も生きのびてね。みんな生き物なんだから。」

私は、ペランダの鉢のベゴニアに毎日声をかける。植物にだって心があると信じているからだ。

何故そう信じられるかという、人間と同じように植物も生き物だからだ。しかし、

以前は時々、植物は私の心を受け止めているのか心配になることがあった。だからある日、実験をしてみることにした。植物の心を知るために。

二つの完全に熟していないデコポンを用意した。緑色が残り、かたく、あまりにおいのしない、同じ大きさ、同じ日に買った二つのデコポンだ。実験の方法として考えたのは、デコポンの一つには、

「がんばれ。君はおいしいデコポンだ。」
といい、もう一つには、

「君はどうせかれるんだから、がんばらなくてもいいよ。」

と言う。それを十日間続け、ちゃんとデコポンが心を持ってこの私の言葉をしっかりと受け止めているか、実験をすることにした。二つのデコポンを机に置き、せりふも紙に書いて覚え、実験を開始した。

一日目、『デコポンに対する話し方は心をこめて』を心がけて話しかけた。

「がんばれ。君はおいしいデコポンだ。」

「君はどうせかれるんだから、がんばらなくてもいいよ。」と話しかけたが、特に何の変化も見られない。

二日目も、デコポンたちは寝ているのか、話しかけてもあまり変わらない。やっぱり植物には、

「心はないのかな。」

と思ったが、

「そんなに簡単に変化があるはずがない。」

と考え直し、いつもの言葉をかけ続けた。

三日目。少し変化があった。悪口をあびせている方の色が、インフルエンザにでもかかったように、色がうすく、黄色っぽく見える。偶然なのだろうか。

五日目。また変化が見えてきた。悪口を聞かせている方に、少し痛みのようなものが見えてきた。下の方に何か黒い点々が見える。やはり、聞かせてきた言葉はデコポンにとっても嫌な言葉だったのだろうか。人間が言われたら、

どのくらい苦しいかと思うとぞっとしたが、実験を始めてしまったので後戻りはできない。そして、またいつもの言葉を二つのデコポンにかけ続けた。

六日目。デコポンの気持ち

がその様子から読み取れるようになってきた。優しい言葉をかけているデコポンは、熟してきて健康そうにつやつやしている。悪口を言っている

デコポンは、緑色がだいぶ残り、黒っぽい部分が広がっている。人間だと早く病院に行かなければならない状態じゃないだろうか。デコポンにはかわいそうだったが実験は続けた。

「ごめんね。デコポン。」

八日目。二つのデコポンの差がよりはっきりとしてきた。優しい言葉をかけているデコポンは熟し、うすいきれいなオレンジ色で、見るからにいいしそうだ。けれどももう一

方

のデコポンは、くさり始めているのが分かり、へたの部分も黒くなってきた。まるでエス・オー・エスを出しているようだった。もう実験をやめたいと思った日だった。

十日目。実験最後の日。二つのデコポンを見て、胸がはずむ気持ちと、痛む気持ちを一緒に味わった。優しい言葉をかけているデコポンは完全に熟し、つやつやしたオレンジ色で、いい香りを出している。食べてみると甘い味と

すっぱい味が口の中におしく広がった。それに対し、最後まで悪口をあびせられたデコポンは黒くくさり、とても食べられる状態ではなかった。

この実験を通して、私は植物にも心があると信じられるようになったのだ。美しい言葉、優しい言葉をかければ、

それを受け取り、いきいきと育ち、きれいな花を咲かせる。そして、もう一つ改めて分かったことがある。人間にももちろん心がある。人間、植物、動物など、心があるもの

の心を傷つけてはいけないということだ。

私

が大人になって、私たちの手で社会を作り上げていかなければならなくなつた時、

大人の目線だけで考えずに、小さい子どもやお年寄り、障害を持つた方の目線も考えて、社会を作り上げていかなければならないと思います。そういう大人になるために、今からでも、周りの人のことを考えて行動する必要があると思います。私たち自身が使っていて不便を感じたら、積極的に声を出すことが大切だと思います。そうすれば、新しく

作られるものには、私たちの意見も加えられることになるかもしれない。多くの人が共に考え、工夫し合うことで、ユニバーサルデザインでの物作りが当たり前になり、いろいろな人が、いっしょに安心して暮らせる社会が実現する

と思います。そして、ユニバーサルデザインの考え方だけでなく、日頃の小さな心づかい

大切にしなければいけない生命

三島中1年
長谷川 絢 美さん



私は、時々考えます。「生命」とは何なのか。今、自分がここに息づいている偶然性。

地球が誕生し、人類が生まれ、「私」にたどりつくまでの永い永い歴史。こうやって、生きていくこと、存在していることを考えてみると、すごく不思議に思えてきます。私の周りには人達との出会い、私が今ここに立っていること、考えれば考えるほど、生命が不思議に思えてくると同時に、

どんなに小さい生命でも、とても重く、大切に思えてきま

いうことだ。悪い言葉で心が傷つけば、あのデコポンのようにくさり、もうのびのびと成長できないかもしれない。立ち上がることもできないかもしれない。

だから、いじめの言葉や暴言を口から出すのではなく、人間たち心を持つすべてのものがいきいきと生活し、成長していくために、自分たちのまわりが美しい言葉や優しい言葉でいっぱいになるように努力していきたい。

よりよい三島町に

三島小6年
上 原 英玲奈さん

雄大な只見川、そこを流れる屋形船、紅葉のきれいな美坂山。三島町には自慢できることが他にもたくさんあります。

例えばここ、町民センターには、いたるところにスロープがあり、段差が少ないので、

す。

す。

よりよい三島町に



雄大な只見川、そこを流れる屋形船、紅葉のきれいな美坂山。三島町には自慢できることが他にもたくさんあります。

例えばここ、町民センターには、いたるところにスロープがあり、段差が少ないので、

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

す。

ことを喜び、実感しなければならぬと思います。いつか、自分がこの世を去らなければならぬ時が来ても、恥のないように、今の「私」を輝かせたいです。

さらに、祖先から受け継ぎ、子孫を残していく連続性。

私は、度々思います。この大切にしなければならぬ私自身の生命は、誰から受け継ぎ、どこからきたのだろう。私が受け継いだ、遠い遠い昔から、ここまでたどりついたこの生命。そう考えるとこれは、私の命だけど、私だけのものとは限らない。それは私が確かに受け取った生命というバトン。これを受け取った以上、私は責任をもって最後まで走り切らなければならぬ。それが私の一つの使命だとして、自分の人生というコースでつまずいても、たとえ道に迷っても、七転び八起きと、走り続けなければならぬ。なぜなら、自分が受け取ったバトンだから。私の使命だから。あきらめてもあきらめきれない。だってこれは、ずっと昔からの祖先がスタートをきった、生命の長い長いリレー。そして、私達はバトンをつなぐ人生の駅伝走者。

私のためにここまでどんなことも乗り越え、最後までバトンを届けてくれた人達のためにも、私が受け継ぐバトンを待っている未来の人達のためにも、今私はどんな辛いことも乗り越えなくてはならない。それは、今までの祖先も同じようにしてきたことだから。それは、私達人間以外の者にも思いを重ね合わせてみて、その者の余命を考えた時生命に対しての思いが深まると耳にした事があるけど、私はそんなことはないと思います。そんなこと、今からだって、生命に対する気持ちがいつの日か、生命に対する愛おしさに変わってくると思うからです。

私は、私の大切にしたいものを、自分を支えてくれている友達や家族、今まで出会った人達と、今と共に生きるためこの時間を大切に、「今」をよりいっそう輝かせるための、そんな一人の担い手となれたらうれしいです。そして、常に、「生命」の大切さや愛しさを実感し、「いまここにいる不思議の偶然性。」「いつか、終わりがあることの有限性。」「ずっと、つながっていることの連続性。」

性。」

性。」

私は、この人生のリレーを最後まで、たとえ転んでくじけそうになっても、私は一人ではないことをいつも心にしまっておき、あきらめず「私」の一瞬一秒を輝かせ、最後の最後まで、走り続けたいと思っています。

私の周りで支え続けてくれている人達に、感謝しながら。

大切にしたいもの

三島中2年 阿部 茜さん



私が大切にしたいものは、たくさんあります。その中でも、私は人とかかわりを大切にしたいと思っています。なぜなら、今まで家族、友達、先生などさまざまな人たちに支えられてきたからです。も

身体健康について

三島中3年 黒 秀 昂くん



「健康」と言っても、身体健康や精神健康などいろいろありますが、その中でも自分は身体健康に関して、日頃注意していることがあります。健康な身体とは、簡単に体調を崩したり病気になることではない丈夫な身体のことです。

身体健康を保つためには、規則正しい生活、つまり食事、運動、そして睡眠など、そのようなことを考えて生活することが大切だと思います。

食事に関しては、朝食、昼食、夕食をきちんととることが大切だと思います。特に朝食だけは絶対に欠食をしてはなりません。朝食を抜いてしまえば、脳や体の働きが悪くなり、一日の生活にも支障をきたしてしまいます。

また、夜食や間食は肥満などの原因になるので、なるべく

し、その支えがなかったら今の私は無かったと思います。それほど、大切な人とかかわりについて考えてみました。まず、家族についてです。

家族とは私が生まれた時から、ずっといっしょに暮らしてきました。なので、家族は私の良いところや悪いところなど、いろいろなところをたくさん知っています。私の家族はいっしょに遊んでくれたり、いっしょに買い物につれていってくれたりなど、いろいろなことをたくさんしてくれ

ます。こんな家族とときどききけんかしますが、いっしょにいるととても楽しいです。しかし、いつもは優しくしてくれている家族ですが、私が悪いことをするとすぐしかってくれます。それに私は、よく反発をしてしま

います。でも、家族がしかつてくれなかったら私は悪いことばかりするようになってしまっていると思います。だから、家族は私のことを思っ

てくれていてるんだなあと、家族は私のことをとても大切にしているんだなあと、思いました。私もそんな家族をこれからも大切に

です。

次に、友達についてです。私の友達は、いっしょに遊んでくれたり、勉強などでわからないところがあると教えてくれたりなど、私にとって大切な人々です。あと、友達と話をしているととても楽しくて、心が落ちつきます。また、私が具合が悪くなると保健室で寝ていると友達もそこへきて「大丈夫？」と声をかけてくれます。その言葉を聞いて、私はとてもうれしくなりました。また、友達がわざわざ保健室まで来てくれたこともとてもうれしく思いました。そのことから、私も友達が困っていたりなどしたら、助けてあげられるようになりたいと思います。でも、私は友達にたくさん迷惑をかけてしまいました。それでも、仲良くしてくれてとても感謝しています。これからも、友達とはげましくあって、良い生活を送りたいと思います。

次に、人間関係の難しさについて考えてみました。人には、一人ひとり違った性格があります。なので、この人とは仲良くできないなどということが起きていてるのではないで

一年生の時はCだったものが、二年生ではBになり、三年生になった今ではAにまで上がりました。

このように、運動をすることで体力は確実に上がっていると実感できました。

そして睡眠に関しては、健康な身体を保つために睡眠をとることもかなり重要であると思います。学校での活動で疲れて家に帰り、十分に睡眠をとらなければ、その疲れがどんどんたまって体調を崩しやすくなってしまう。なお、睡眠時間は最低でも六時間以上は必要だと思います。我々は中学生なので、勉強をすることはもちろん大切なことです。そのために睡眠時間を減らしてしまつてはまずいので、無理な勉強はやめて、遅くても十二時には寝るようにしています。

このように、睡眠によって十分に体力を回復することが、健康のためには重要だと思います。

最後に、自分はこれからも食事、運動、睡眠を意識して、いつまでも健康な身体でいたいと思います。

最後に、自分はこれからも食事、運動、睡眠を意識して、いつまでも健康な身体でいたいと思います。

最後に、自分はこれからも食事、運動、睡眠を意識して、いつまでも健康な身体でいたいと思います。

最後に、自分はこれからも食事、運動、睡眠を意識して、いつまでも健康な身体でいたいと思います。

最後に、自分はこれからも食事、運動、睡眠を意識して、いつまでも健康な身体でいたいと思います。

NPO法人「桐の応援団」誕生 大登地区で植樹祭実施

「桐の応援団」(団長 清水健司氏)は、町民有志と県内外のボランティアの皆さんにより結成され、このたびNPO法人として認証されました。この団体は、桐の文化、産業の振興を推進しながら、子どもたちの健全教育や環境保全活動を目的とするもので、賛同する個人や企業の方々から会費をいただいて、その資金で各種活動を行います。

11月11日には、大登地区で植樹祭を実施。小雨の中、約150名が参加して180本の桐を植樹しました。今後、地元の生産者がこの桐の管理作業を行い、その活動資金を「桐の応援団」の会費で補っていきます。また、三島町を中心として周辺町村にも活動の輪を広げようとしています。



↑大勢の方々が参加して行われた桐の植樹祭(大登地区)



みんなで育てたお米で餅つき 「びおたんクラブ」収穫祭

11月22日、宮下活性化センターにおいて、「びおたんクラブ」の収穫祭が行われ、宮下地区の皆さん、三島小5年生、三島保育所の子どもたちなど約70名が参加しました。この日は、宮下ふれあい公園「びおたん」ミニ水田と近くの水田から収穫された、無農薬、無科学肥料、不耕起で栽培された「こがねもち」約1俵を使って餅つきを行い、きなこ餅、あんこ餅、納豆餅、つゆ餅にしておいしく食べました。

自分たちの手で育てたお米で作った餅は、格別の味だったことと思います。



森林環境学習で桐を植栽 三島小4年生

三島小4年生11名の皆さんは、森林環境学習として「会津桐」について学習してきました。桐博物館、会津桐たんす工場の見学や町長の講話のほか、実習として桐分根の定植、下草刈り、焼き畑準備の手伝いなどを体験し、地元の特産である桐について理解を深めてきました。

12月7日には、桐ドクターの菅家藤男さんや森田晋一さんの説明を受けながら、川井地区の3箇所20本の桐苗を植えました。子どもたちが大人になる頃には、大きく生長して立派な桐の木になるでしょう。

三島中学校が 体力づくり全国優良校

毎日カップ「中学校体力づくり」コンテスト



↑ただ走るのではなく、「毎日が自分との勝負」を心掛けて走る三島中学校生徒の皆さん。

毎日新聞社主催の第21回毎日カップ「中学校体力づくり」コンテストで、三島中学校が優良校に選ばれました。三島中学校では、全校生徒による毎朝2～3kmのランニングや、様々な運動を行う体力向上プログラムの実施、体育行事の充実など、積極的に体力づくりを行ってきました。運動が得意な生徒も苦手な生徒も、一人一人が自分との勝負を心がけ、体調と気持ちに合わせて自主的に取り組み、体力テスト8種目において男女とも全国平均を上回りました。

コンテストには全国から4217校がエントリー。その中から特別賞に5校、優秀校に7校、優良校に三島中学校を含む25校が選ばれ、福島県内では唯一の受賞でした。保健体育担当の古川雅秀先生は、

「秀でた子はいませんが、平均的に体力を伸ばしてくれました。体育担当以外の教員も、生徒の練習のために1年中早朝より参加し、共に汗を流す学校体制を築いたことが、今回の受賞につながりました。」

と話します。現在の3年生は、1年生の時からずっと朝練を続けてきたそうです。これが伝統となり、一人一人ががんばる校風を守ってほしいと思います。

健康な子どもの育て方を学び 日頃の悩みも相談

赤ちゃんを元気に育てる教室

12月12日、町民センターで「赤ちゃんを元気に育てる教室」が開催され、町内の赤ちゃんとお母さん方が参加しました。講師は、福島市明治病院助産師の安斎啓子先生。育児の様々なコツや、赤ちゃんの特徴などをお話されました。たとえば、

「赤ちゃんの舌が白いときはおっぱいの飲み過ぎ。泣いていてもお腹が減っているとは限らないから注意して。」

などとアドバイス。参加した若いお母さん方は、

「心配だったことが聞けて安心しました。こういう場があればもっと参加して、子どもに愛情をいっぱい注ぎ、ゆったりした気持ちで子育てしたいです。」などと話していました。



講師 安斎啓子先生
福島市明治病院助産師

悩みを一人で抱えさせない、孤立させない育児支援が大切です。困ったときは町の保健師さんに気軽に相談してください。小さい町だからこそできる、顔が見える地域で育児ができることが理想だと思います。

みんなで健康づくり《教室・健診の予定》

〒 役場 町民課 保健福祉係 TEL 4 8 - 5 5 6 5

4ヶ月児健診

1月8日(火) 11:15～ 坂下厚生総合病院

機能訓練会

1月9日(水) 13:30～ 福寿草

足腰げんき教室

1月10日(木) 13:30～ 町民センター

3歳児健診

1月16日(水) 13:00～ 柳津町 銀山荘

スッキリ・サラサラ教室

1月17日(木) 13:30～
町民センター

からだげんき運動教室

1月23日(水) 13:30～
町民センター



会津坂下警察署からのお知らせ

三島町では11月中、犯罪は発生しませんでした。管内では車上ねらいや事務所荒しの被害が多くなっていますので、車中や会社の事務所などの貴重品の管理には、十分注意してください。

三島町内街頭犯罪等発生状況(1～11月)

区 分	管 内	三島町
空き巣ねらい	1	
忍 込 み	1	
事 務 所 荒 し	5	1
出 店 荒 し	2	
自 動 車 盗	1	
オートバイ盗	1	
自 転 車 盗	15	
自販機ねらい	3	2
車 上 ね ら い	4	
街 頭 犯 罪 計	33	3
全 刑 法 犯	130	4

12月の納税

固定資産税 第3期
国民健康保険税 第5期
介護保険料(普通徴収) 第5期

これからの行事予定

12月22日(土)
9:30～ キッズクッキング(町民センター)

12月25日(火)
9:30～ つくしの会(町民センター)

1月 4日(金)
10:00～ 名刺交換会・自治功労表彰式(町民センター)

1月 6日(日)
10:00～ 三島町消防団出初式

1月11日(金)
10:00～ ワンダークラブ「団子さし」(三島保育所)

1月19日(土)
13:00～ 第5回奥会津案内人講座
20日まで(生涯学習センター)

1月20日(日)
10:00～ 冬季防火訓練(桧原地区)

1月25日(金)
10:00～ ワンダークラブ「お店屋さんごっこ」
(三島保育所)

10:00～ Y Yサークル(町民センター)

1月26日(土)・27日(日)
第3回まちづくり元気塾(詳細は後日お知らせします。)

三島町消防団出初式 ご協力をお願い

1月6日の三島町消防団出初式では、幼年消防クラブ(三島保育所児童)と一緒に宮下商店街をパレードします。全町一斉にサイレンが鳴りますので、皆様のご協力をお願いいたします。

《社会福祉協議会より》
生きがいデーサービス
「サロン事業」の予定

桧原はつらつクラブ
1月 9日(水) 10:00～ 桧原多目的集会所

高清水・小山いきいきサロン
1月16日(水) 10:00～ 高清水集会所

西方はつらつ元気塾
1月17日(木) 10:00～ 西方ふるさとセンター

ご寄付ありがとうございました
社会福祉協議会へのご寄付

ご遺志によるもの 山 内 初 治 様(西方)
稲 勇 様(名入)

財団法人日本体育協会
平成19年度日本スポーツ少年団顕彰
三島町スポーツ少年団が受賞

日本スポーツ少年団顕彰は、永年にわたりスポーツ少年団の充実発展に大きく貢献された団体を顕彰するもので、このたび三島町スポーツ少年団が受賞しました。三島町スポーツ少年団は、昭和49年に発足した歴史ある団体で、サッカーやスキー、ミニバスケットボール、剣道、陸上競技などに取り組んできました。
今後も、スポーツを通じて人間性豊かな少年少女の育成を目指し、子どもたちと保護者、指導者が一体となって活動するスポーツ少年団として、その役割が期待されます。



↑受賞した三島町スポーツ少年団
本部長の栗城佐さん(左)

公園デビューならぬ…
「カタクリデビュー」しませんか

小さいお子さんのいるお母さん、お父さん、おばあちゃん、おじいちゃん、育児について、遊ぶ場所がない、遊び相手がいない、相談相手がいないなどとお困りではないでしょうか。そこで、森の校舎カタクリでは、子育て奮闘中のお母さん方のために、月2～3回ほど集まってワイワイ遊べる場所を提供します。

子供同士を遊ばせたり・・・
みんなでお菓子を作ったり・・・
子育ての悩みを相談したり・・・
お母さんたちでお茶飲みをしたり・・・

子育てをするお母さんが楽しめる場所にしたいと思います。ぜひ、お友達も誘って「カタクリデビュー」してください。

○開 催 月2～3回程度
午前10時～午前11時30分
※開催日は随時お知らせします。

○対象者 赤ちゃんから保育所入所前のお子さんと保護者

○参加費 1回親子で300円(おやつ代込み)

○申 込 随時受け付けておりますので、開催日の3日前までにご連絡ください。
※ワンダークラブとは重複しないように開催します。

〒 申込 森の校舎カタクリ TEL 4 8 - 5 5 7 7
三島町公民館 TEL 4 8 - 5 5 9 9

子育て家庭を応援します
福島県子育て支援パスポート事業
「ファミたんカード」申請受付中

12月1日より、子育て家庭を応援するために、福島県子育て支援パスポート事業が始まりました。この事業は、18歳未満の子供のいる家庭に「ファミたんカード」を交付し、県内1,736の協賛店の協力で様々なサービスを受けられるようになるもので、町内の商店でも利用できます。


ファミたんカード

このステッカーのある
お店で使えます。

ファミたんカードを利用できる方

・18歳未満の子供のいる家庭(世帯に1枚交付)
※18歳に達してから最初の3月31日まで対象

・18歳未満の子供と同居している家族は全員利用
できますが、協賛店によってはサービスが子供
に限定される場合もあります。

ファミたんカードの交付申請

・役場窓口で申請してください。

・カードとあわせて、協賛店での特典を掲載した
ガイドブックを配布します。

〒 役場 町民課 保健福祉係 TEL 4 8 - 5 5 6 5

小正月

あたたかい火と、住民の「祈り」が町を包む。
五穀豊穡を願い、家族の幸せを願い、
そして新しい年にかける一人一人の想いが、
燃え上がる炎と共に天へと昇る。

「サイの神」

それは、私たちのふるさとの情景そのものだ。
伝えよう、山村の精神文化。
育てよう、地域のきずな。



滝谷地区のサイの神（平成19年1月15日）

人口と世帯 12月1日現在（住民基本台帳）

人口	2,222人（-5）	人の動き	出生0人
（男）	1,046人（±0）		死亡5人
（女）	1,176人（-5）		転入3人
世帯数	878世帯（-3）		転出3人

広報 みしま 12月号 No.177

発行日 平成19年12月21日
編集 三島町役場 総務課 企画財政係
福島県大沼郡三島町大字宮下字宮下350
Tel 0241-48-5515
ホームページ <http://www.town.mishima.fukushima.jp>

霜柱点眼染みて明日へ生く
吾が古家簀巻にしたる冬構え

松原 片山 祐一

歳時記 萌の会

三島町の年中行事

（福島県指定重要無形民俗文化財）

1月	若水汲み 若木迎え 鳥追い だんごさし サイの神 初田植え 愛宕様参り 愛宕様の火
2月	豆まき 初午
3月	ひな流し
6月	虫送り
10月	虫供養